

CASBEE-建築(新築)2014年版
朝日印刷 京都クリエイティブパーク

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.1.2)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.4
Q1 室内環境			0.32			3.1
1 音環境		2.6	0.15			2.6
1.1 騒音		1.0	0.40			
1.2 遮音		4.2	0.40			
1 開口部遮音性能	ビル用サッシを採用し遮音性能を確保	5.0	0.60			
2 界壁遮音性能		3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽衝撃源)						
4 界床遮音性能(重衝撃源)						
1.3 吸音		3.0	0.20			
2 温熱環境		3.2	0.35			3.2
2.1 室温制御		3.5	0.50			
1 室温	断熱サンドイッチパネルt=35を採用	3.0	0.38			
2 外皮性能		5.0	0.25			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38			
2.2 湿度制御		3.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30			
3 光・視環境		2.6	0.25			2.6
3.1 屋光利用		1.8	0.30			
1 屋光率		1.0	0.60			
2 方位別開口						
3 屋光利用設備		3.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30			
1 屋光制御		3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25			
4 空気環境		3.7	0.25			3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	4.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.30			
1 換気量		3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33			
4.3 運用管理		4.0	0.20			
1 CO ₂ の監視	建物全体の禁煙	3.0	0.50			
2 喫煙の制御		5.0	0.50			
Q2 サービス性能			0.30			3.1
1 機能性		3.1	0.40			3.1
1.1 機能性・使いやすさ		2.6	0.40			
1 広さ・収納性		3.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.33			
3 バリアフリー計画		3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30			
1 広さ感・景観		3.0	0.33			
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33			
3 内装計画		3.0	0.33			
1.3 維持管理		4.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計	外壁の仕上げにフッ素塗料を採用 専用部以外の諸設備は共用部での維持管理作業が可能	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		4.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30			3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.50			
1 耐震性		3.0	0.80			
2 免震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20			

2.4 信頼性			3.2	0.20			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備	雨水貯留槽を設け、散水等に利用可能な計画	4.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備		3.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.1	0.30			3.1
3.1 空間のゆとり			3.6	0.30			
1	階高のゆとり	工場棟の階高のゆとり及び増築を考慮した計画	4.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30			
3.3 設備の更新性			3.0	0.40			
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.38			3.8
1	生物環境の保全と創出	既存竹林の保全と地域在来種である樹木の採用	4.0	0.30			4.0
2	まちなみ・景観への配慮	前面幹線道路からの景観に配慮した緑化と建物外観	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30			3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50			
3.2	敷地内温暖環境の向上	緑地を十分確保した外構計画と部分的な屋上緑化	4.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性							3.5
LR1 エネルギー			-	0.40			4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.03			3.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.12			4.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) -	4.5	0.61			4.5
	集合住宅以外の評価(3a,3b)	LED照明の採用による消費エネルギーの削減	4.5	1.00			
	集合住宅の評価(3c)						
4 効率的運用			3.0	0.24			3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00			
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
	集合住宅の評価						
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
LR2 資源・マテリアル				0.30			3.3
1 水資源保護			3.4	0.20			3.4
1.1	節水		3.0	0.40			
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	雨水貯留槽を設け、散水等に利用可能な計画	4.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60			3.1
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20			
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生骨材の路盤材利用	3.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	解体時の仕上げ及び躯体の分離がしやすい建物	4.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.20			3.8
3.1	有害物質を含まない材料の使用	接着材、塗塗料などに有害物質を含まない材料を選定	5.0	0.30			
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.70			
1	消火剤	フロンガスを使用していない消火剤の採用	4.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33			
3	冷媒		3.0	0.33			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率をおさえた建物建設	3.5	0.33			3.5
2 地域環境への配慮			3.1	0.33			3.1
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25			
2.2	温暖環境悪化の改善		3.0	0.50			
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25			
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	駐車場と駐輪場を十分確保	5.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制	工場運用において廃棄物の分別及び抑制	4.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音		3.0	0.33			
2	振動		3.0	0.33			
3	悪臭		3.0	0.33			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制						
3	日照障害の抑制		3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70			
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			